



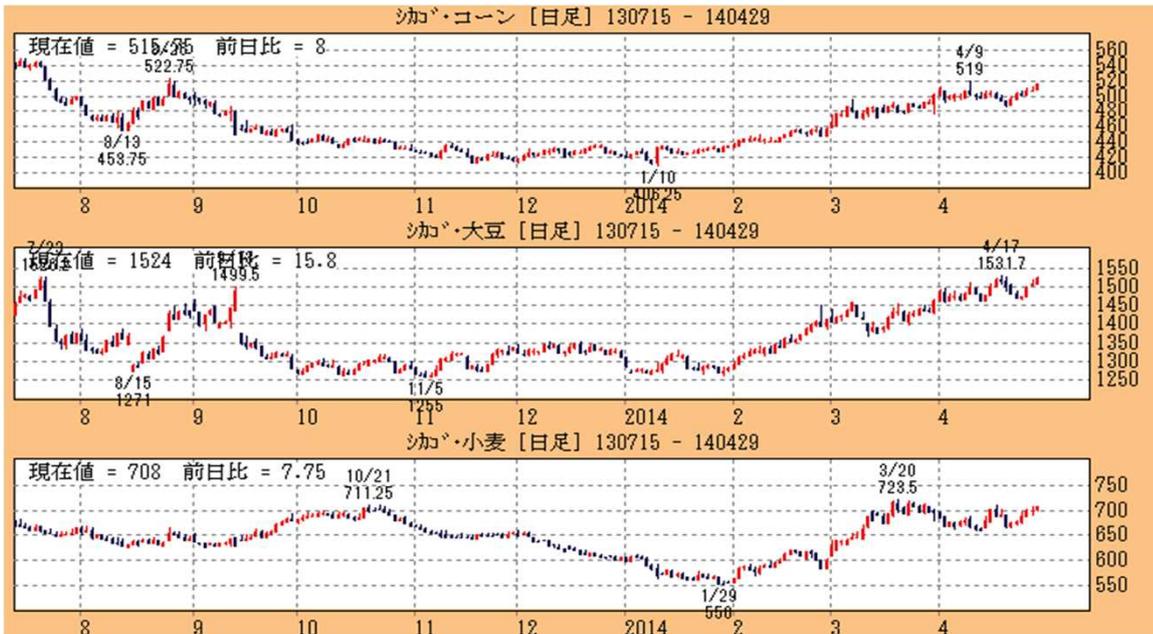
# 週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。  
毎週水曜日夕方発行

作付け遅れで穀物価格上昇中

発行日 : 2014/4/30



4月29日のシカゴコーン5月限は8.00セント高の515.75セント。7月限は、作付け遅れをはやして高寄りしたあと、産地の低温及び降雨予報を受けた投機買いで前日高値（518.50セント）を上回った。株高・原油高も支援材料。前日発表されたコーンの作付けは19%終了で、過去5年平均の28%を下回った。立会時間は、3.50セント高で寄り付いたあと、516.75セントまで下押されたが、押し目買いが入って時間外取引の高値を抜き、521.50セントまで値を飛ばした。作付けが平年を下回るなか、今週も低温・降雨が予報されることから、一層の作付け遅れ予想が広がった。4月27日現在、米国のコーン作付けは19%終了で、前週の6%から進んだが、平年の28%を下回った。降雨に加え低温が続くことも作付け遅れの要因。ドル反発で上昇が一服したが、テクニカル改善による投機買いが入り、522.00セント（8.25セント高：1.6%）まで上値を伸ばした。ただ、年初来高値（524.25セント：4月9日）を試す勢いはなかった。

4月29日のシカゴ大豆5月限は15.75セント高の1524.00セント。7月限は、17.25セント高の1517.25セント。7月限と11月限スプレッドは8.75セントまで拡大した。過去最大のスプレッドをわずか1.50セント下回る水準。作付け遅れや産地の天候不順をはやして反発に転じた。米国期末在庫の逼迫が予想されるなか、国内圧碎需要が旺盛なことや、コーン上昇、強気のテクニカルで一代高値に急接近した。7月限は、安寄りしたあと15ドル台を回復、売り向かわれて値を消すなど、序盤は不安定な値動きとなったが、押し目買いが優勢になってプラスサイドに浮上した。大豆作付けは3%終了と過去5年平均の4%を下回ったことや、今週は産地に低温・降雨が予報されることが押し目買いを誘った。株高・原油高も強材料。立会時間は、0.75セント高で寄り付いたあと押されたが、15ドルちょうどで下げ止まったことから買い賛成となり、時間外取引の高値や前日高値（1513.00セント）を突破した。米国産地に気温低下や降雨が予報され、天候不順が続いていることから投機買いが入った。最近では輸出に陰りがみられるものの、期末在庫の逼迫が予想されるなか、国内需要が旺盛なことがはやされた。10日動平均（1484.70セント）を上回っていることや、コーン上昇、原油高も強材料。独オイル・ワールドが世界大豆生産高見通しを2.797億トンから2.819億トンに上方修正したが、投機買いの流れに巻き込まれた。ただ、1520.50セント（20.50セント高：1.4%）で上昇は一服し、一代高値（1521.00セント：4月17日）にとどかず、上昇は一服した。ドル反発は弱材料。

4月29日のシカゴ小麦5月限は14.00セント（1.8%）高の797.25セント。6営業日続伸。シカゴ商品取引所（CBOT）の軟質赤色冬小麦の5月限は、7.75セント高の708.00セントで引けた。7月限は8.00セント高の716.50セント。小麦品質協議会は例年行うカンザス州視察ツアーを開始し、同州中北部でイールド見通しが1年前より悪化するとの方見方を示した。小麦は期近が大幅続伸。終値の前日比は5.25～9.75セント高、中心限月の7月限は8.00セント高の716.50セントで引けた。7月限は、買いが先行したあと、戻り売りで704.00セントまで値を消したが、押し目買いが入って反発に転じた。冬小麦の作柄低下（「良」以上は34%から33%）や生育遅れは織り込み済みで材料視されなかったが、ブレン南部の干ばつやコーン上昇をはやして716.25セントまで切り返した。（日本先物情報ネットワーク）



TOPICs Crop Progress

トウモロコシ			18州
Planted (作付)	前年度	2014年	過去5年平均
4月13日	2%	3%	6%
4月20日	4%	6%	14%
4月27日	5%	19%	28%

4月27日までのトウモロコシの作付は19%完了。前年の5%よりは多いが、過去5年平均の28%よりは遅れている。

トウモロコシ			18州
Emerged (開花)	前年度	2014年	過去5年平均
4月27日	2%	3%	6%

大豆			18州
Planted (作付)	前年度	2014年	過去5年平均
4月27日	0%	3%	4%

TOPICs 今後の米国の天候

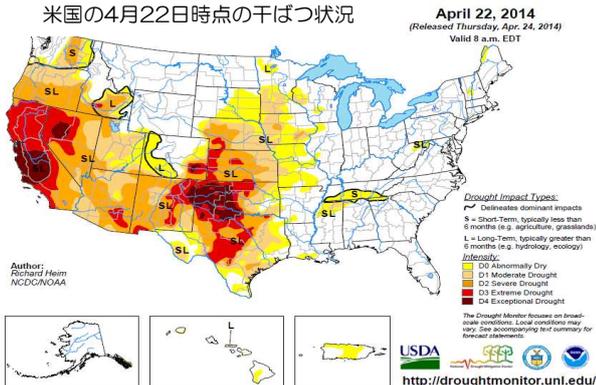
米国産地の天気概況は以下の通り（米農務省HPの天気概況及び予報を要約）。  
 コーンベルトは、低温で風が吹き、雨がちの天気で農作業が滞っている。火曜朝の最低気温は、まとまった雨が降った北部で4℃を下回った。4月27日までの週、イリノイ州（27%）、ミズーリ州（21%）のコーン作付けは予定の2割を上回った。全国的には13%にとどまった。

米南部は、二夜連続で竜巻に襲われたあと、激しい雷雨に見舞われている。メキシコ湾岸の天気が回復し、一部で農作業が再開している。

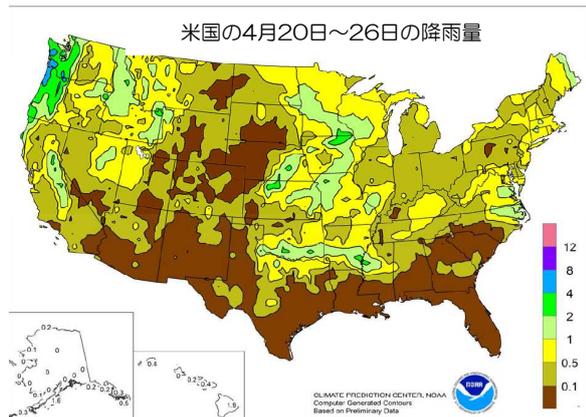
米ブレイズは、季節外れの低温で、風の強い天気が続いている。ブレイズ南部では乾燥した天気が続く一方、散発的にわか雨や雪が中部・北部の一部で降っている。両ダコタ州西部やネブラスカ州北部で雪が降り、気温は0℃付近で推移している。

アイオワ州とミズーリ州の州境に位置する低気圧は、木曜までに五大湖地方に、週末までにカナダ東部に移動するだろう。米南東部では火曜、激しい雷雨が続き、木曜には大西洋岸に移動するだろう。大西洋岸中部の雨量は75~150ミリに達するだろう。対照的に、太平洋岸からブレイズ南部にかけて、今週の残りは乾燥した天気が続くだろう。大西洋岸の気温が上昇、高温は週末にはブレイズ中部・南部に広がるだろう。

米国の4月22日時点の干ばつ状況



米国の4月20日~26日の降雨量



冬小麦			18州
Headed	前年度	2014年	過去5年平均
4月13日	4%	5%	NA
4月20日	9%	9%	17%
4月27日	13%	18%	26%

冬小麦					18州	
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
4月6日	10%	18%	36%	30%	5%	35%
4月13日	12%	20%	34%	30%	4%	34%
4月20日	13%	20%	33%	29%	5%	34%
4月27日	14%	20%	33%	28%	5%	33%
前年度	16%	19%	32%	28%	5%	33%

春小麦			6州
Planted (作付)	前年度	2013年	過去5年平均
4月13日	6%	6%	NA
4月20日	7%	10%	19%
4月27日	11%	18%	30%

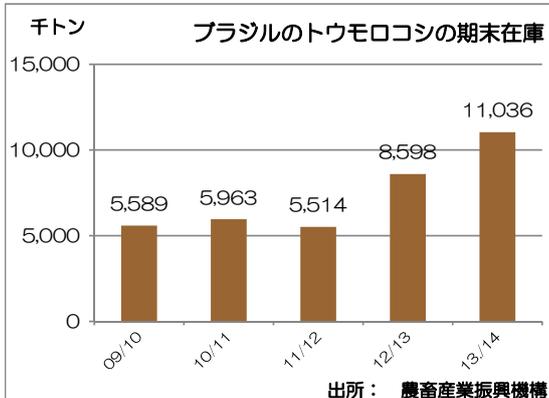
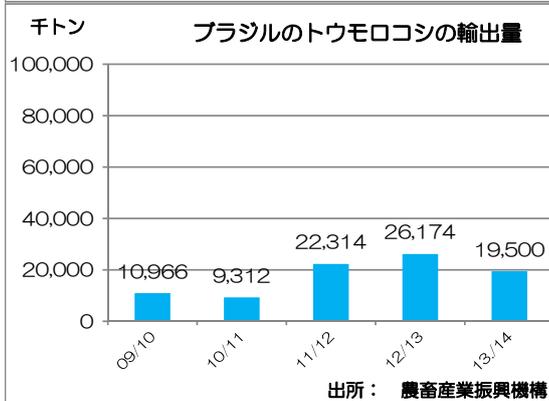
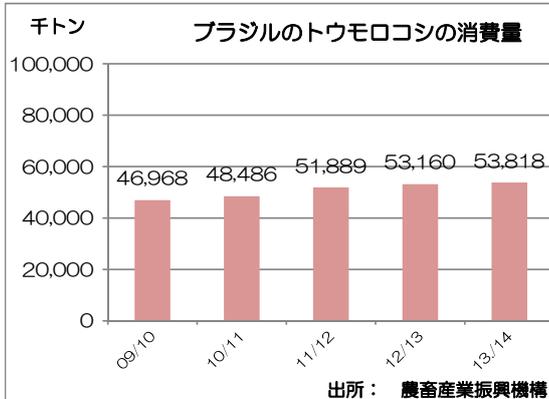
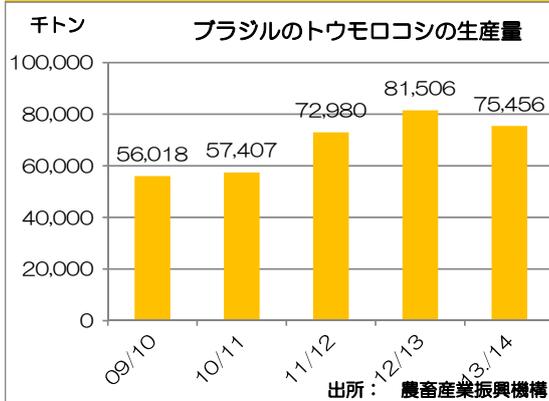
春小麦			6州
Emerged (開花)	前年度	2013年	過去5年平均
4月27日	3%	5%	9%

米国の作付遅れ by 4月29日 USDA Weekly Weather and Crop Bulletin

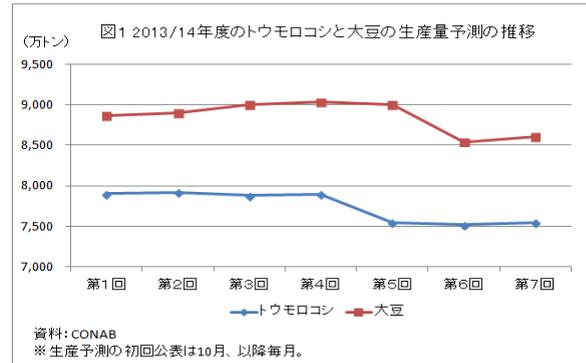
全国的に1~2インチ（25ミリ~50ミリ）の降雨があり、農作業は遅れが目立った。ことに東部平原とミシシッピ川渓谷で目立った。テネシー渓谷と北東部及び大西洋岸中部でも同様の降雨があったが、北部平原と東部コーンベルト地帯では激しい雨はなかったため農作業は進んだ。南部は西メキシコ湾岸から南部大西洋岸にかけて乾燥した天候が続いている。



## TOPICS ブラジルのトウモロコシ需給 by 農畜産振興機構



ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は4月10日、2013/14年度（10月～翌9月）第7回目となる主要穀物の作付状況調査報告を発表した。これによると、トウモロコシ生産量は7546万トン（前年度比7.4%減）、大豆は8608万トン（同5.6%増）となり、共に前回報告（3月）よりわずかに上方修正された。



**トウモロコシ：2013/14年度の生産量、前年度比7.4%減の7546万トンの見込み**

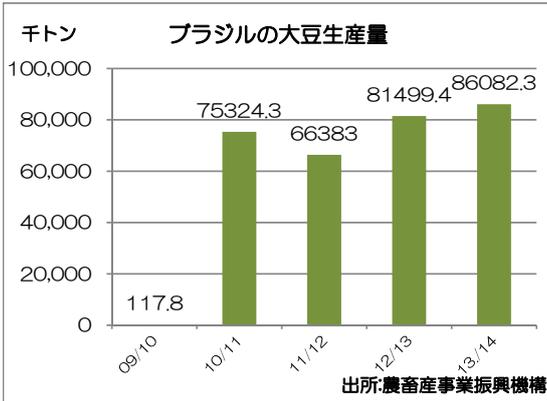
第1期作のトウモロコシの作付面積は、663万ヘクタール（前年同期比2.3%減）と推計されており、減少要因としてCONABは、前回同様にトウモロコシよりも生産コストが安く収益性の高い大豆の作付面積が拡大したことを挙げている。なお、第1期作の生産量は3152万トン（同6.4%減）と見込まれている。地域別に見ると、北東部地域以外の生産量は前年度から軒並み減産が見込まれている。主要生産州の中では、南東部のサンパウロ州や南部のパラナ州での第1期作の作付面積の減少幅が大きく、それぞれ同23%を超える減少とされている。一方、北東部の作付面積は同24.1%の大幅な増加としており、今年度は、南部、南東部に次ぐ第1期作トウモロコシ生産地域に躍進するとみられている。昨年12月頃より、ブラジル南部を中心に続いた高温乾燥を受け、CONABは生産予測を下方修正してきたものの、今回の報告では、北東部の作付面積が大幅に拡大したことを受け、わずかな上方修正となった。

一方、第2期作トウモロコシの生産量は、前回報告から約18万トン増の4394万トンとなった。これは、マトピバ地域の単収、生産量が上方修正されたことを反映させたことによる。

	千トン				
年度	09/10	10/11	11/12	12/13	13/14
生産量	56,018	57,407	72,980	81,506	75,456
輸入量	392	764	774	911	300
期初在庫	7,113	5,589	5,963	5,514	8,598
供給量	63,523	63,760	79,717	87,931	84,353
消費量	46,968	48,486	51,889	53,160	53,818
輸出货量	10,966	9,312	22,314	26,174	19,500
期末在庫	5,589	5,963	5,514	8,598	11,036



## TOPICS ブラジルの大豆需給 by 農畜産振興機構



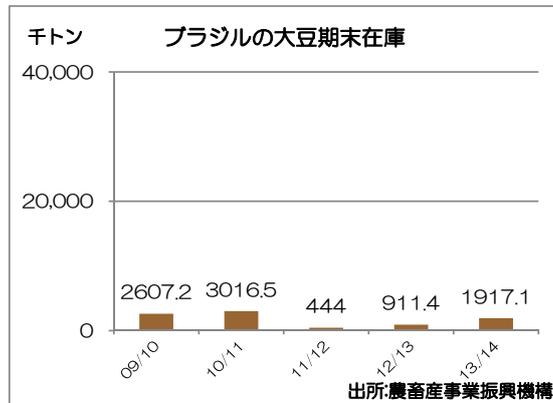
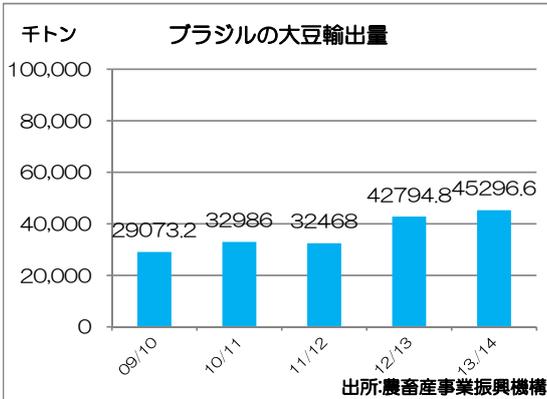
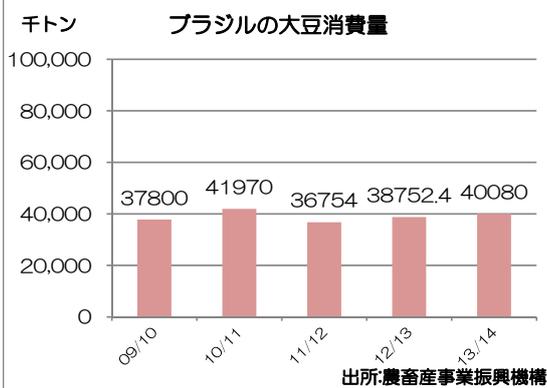
年度	09/10	10/11	11/12	12/13	13/14
生産量	118	75,324	66,383	81,499	86,082
輸入量	75,324	41	267	284	300
期初在庫	674	26,087	3,017	444	911
供給量	69,480	77,973	69,666	82,227	87,294
消費量	37,800	41,970	36,754	38,752	40,080
輸出量	29,073	32,986	32,468	42,795	45,297
期末在庫	2,607	3,017	444	911	1,917

大豆：2013/14年度の生産量、前回報告より5.6%減の8608万トンの見込み

大豆の作付面積は、3001万ヘクタール（前年度比8.2%増）と見込まれている。

トウモロコシと同様に、前回報告までは南部を中心に発生した高温乾燥の影響を考慮し、単収と生産予測はいずれも下方修正されてきたが、今回の生産量予測では前回報告より64万トン増の8608万トン（同5.6%増）となった。これは、国内最大の生産州のマットグロッソ州の作付面積、単収が共に増加見込みとなったことが増加要因となった。一方、第2、3位の生産州である南部のパラナ州、リオグランデスル州の生産量は、前年度から作付面積は増加しているものの、高温乾燥の影響を受けて単収の低下が見込まれるため、生産量は減少予測となった。

CONABIは、生産量の大幅な伸びが期待される地域として、これまでの報告と同様に北東部を中心としたマトピバ地域を挙げており、作付面積と単収の増加を受け、同地域の生産量は国内全体の生産量の1割以上に相当する926万トン（同35.5%増）まで拡大すると見込んでいる。



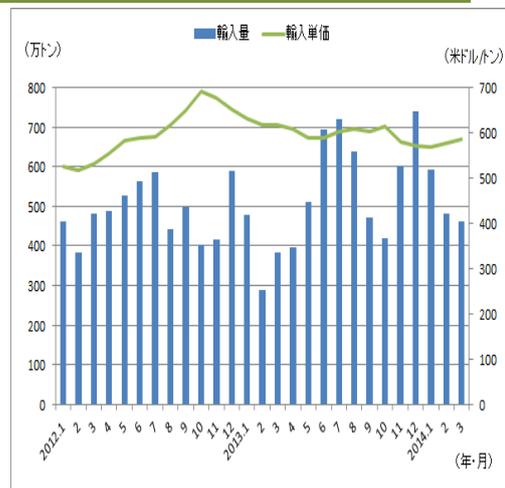
## TOPICS 中国の1～3月の大豆輸入量は前年同期比33%の増加 by 農畜産振興機構

中国海関総署は、4月10日、3月の輸入統計を公表した。これによると、3月の大豆輸入量は、前年同月比20.3%増の462万トンとなった。1～3月までの累計輸入量は1534万トン（前年同期比33.1%増）となり、前年を上回るペースで輸入していることがうかがえる。

また、同署は、4月の大豆輸入量を645万トン（前年同月比62.1%増）と見込んでおり、入港量の内訳を、華東地区360万トン、華南地区129万トン、遼寧省66万トン、華北地区90万トンとしている。

現地報道によると、4月に入ってから大豆かすの荷動きは悪化し、在庫が継続的に増加している。また、一部の搾油工場では、倉庫が大豆かすで満杯になり、稼働率が50%以下まで低下したとされる。一方、大豆の輸入量は増加しており、工場稼働率の低下から輸入大豆の在庫積増しが進み、3月末の大豆の在庫量は548万トン（前年同期比32.0%増）となった。

こうした背景には、国内の豚価低迷や鳥インフルエンザの影響により、豚や鶏の飼養頭羽数を減じる動きが強まっていることにより、飼料需要が低下していることがある。



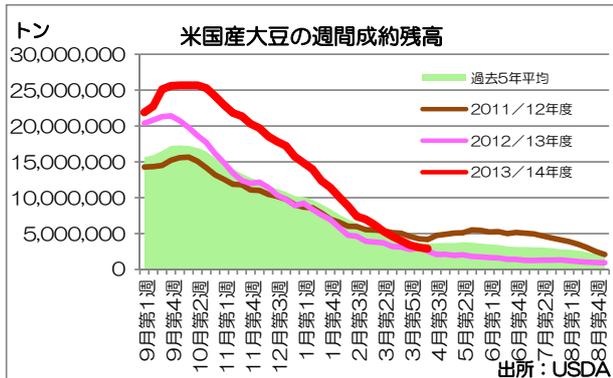
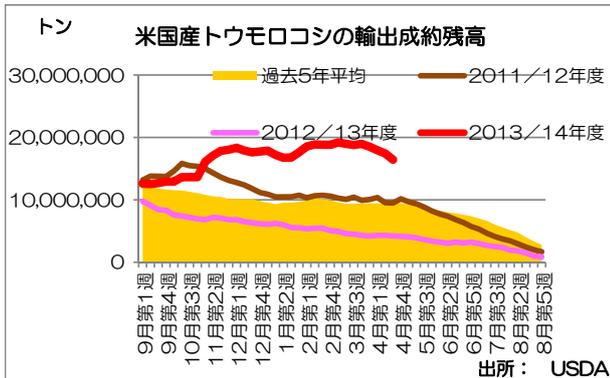


## ファンドの建玉

までの週	トウモロコシ				大豆				小麦			
	買い残	売り残	ネット買い残	増減	買い残	売り残	ネット買い残	増減	買い残	売り残	ネット買い残	増減
1月7日	306,346	345,196	▲38,850枚	+9,191枚	209,543	73,707	+135,836枚	▲26,922枚	122,172	187,382	▲65,210枚	+1,728枚
1月14日	327,579	344,977	▲17,398枚	+21,452枚	226,923	74,939	+151,984枚	+16,148枚	123,037	175,962	▲52,925枚	+12,285枚
1月21日	323,944	336,704	▲12,760枚	+4,638枚	234,948	80,876	+154,072枚	+2,088枚	123,449	175,780	▲52,331枚	+594枚
1月28日	322,233	321,949	+284枚	+13,044枚	224,330	75,958	+148,372枚	▲5,700枚	122,659	181,060	▲58,401枚	▲6,070枚
2月4日	341,549	285,223	+56,326枚	+56,042枚	237,402	67,227	+170,175枚	+21,803枚	125,994	178,752	▲52,758枚	+5,643枚
2月11日	348,185	256,202	+91,983枚	+35,657枚	264,506	61,870	+202,636枚	+32,461枚	124,053	169,224	▲45,171枚	+7,587枚
2月18日	355,348	247,299	+108,049枚	+16,066枚	280,432	63,692	+216,740枚	+14,104枚	120,615	153,992	▲33,377枚	+11,794枚
2月25日	378,628	211,575	+167,053枚	+59,004枚	284,738	56,395	+228,343枚	+11,603枚	113,220	131,269	▲18,049枚	+15,328枚
3月4日	395,852	171,925	+223,927枚	+56,874枚	290,466	63,555	+226,911枚	▲1,432枚	110,791	114,233	▲3,442枚	+14,607枚
3月11日	417,337	143,248	+274,089枚	+50,162枚	279,852	73,801	+206,051枚	▲20,860枚	111,247	100,407	+10,840枚	+14,282枚
3月18日	414,132	130,011	+284,121枚	+10,032枚	270,638	68,042	+202,596枚	▲3,455枚	111,619	91,567	+20,052枚	+9,212枚
3月25日	414,549	122,852	+291,697枚	+7,576枚	254,773	62,514	+192,259枚	▲10,337枚	118,396	86,141	+32,255枚	+12,203枚
4月1日	424,315	98,971	+325,344枚	+33,647枚	265,296	62,008	+203,288枚	+11,029枚	120,868	80,829	+40,039枚	+7,784枚
4月8日	432,082	101,080	+331,002枚	+5,658枚	257,020	68,520	+188,500枚	▲14,788枚	121,152	84,645	+36,507枚	▲3,532枚
4月15日	423,712	101,245	+322,467枚	▲8,535枚	262,565	68,002	+194,563枚	+6,063枚	116,839	83,912	+32,927枚	▲3,580枚
4月22日	414,055	107,960	+306,095枚	▲16,372枚	241,912	74,991	+166,921枚	▲27,642枚	110,520	85,811	+24,709枚	▲8,218枚

トウモロコシのネット買い残はこの2週間減少している。大豆も4月22日は減少、小麦は3週連続で減少している。トウモロコシと大豆をファンドは春先からずっと買い続けてきたが、ここにきて手じまい売りを行っているようである。調整が一段落すれば、再び天候次第で買いに出る可能性は残されている。

## 4月17日までの輸出成約残高 by USDA



## 今後の予想

天候相場の入り口であるこの時期、穀物価格は不透明な展開となっている。作付けはトウモロコシが例年より少し遅れたため大豆も遅れている。これは中西部に降雨があったためである。逆に言えば降雨で土壌水分は十分満たされている。ファンドは年初からトウモロコシや小麦を買い増していたが、ここにきて売り閉じる動きとなっている。それでもトウモロコシは30万枚、大豆は24万枚のネット買い残があり、まだ買いが多い状況である。南米の出荷もそろそろ終わりに近づき、今後は米国からの買い付けに移行するだろう。それが13/14年度の期末在庫にどの程度影響するかが今後の課題である。ここ4週間は大豆の輸出成約残高が過去5年平均比でマイナスとなっており、一段落している感がある。

掲載される情報は株式会社コモディティ インテリジェンス（以下「COMMI」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMIが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMIは保証を行っておりません。また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。本文およびデータ等の著作権を含む知的財産権はCOMMIに帰属し、事前にCOMMIへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。COMMIが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMIは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。



発行元：

株式会社コモディティ インテリジェンス  
〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310  
会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692